

## 平成28年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年5月13日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社 昭文社  
 コード番号 9475 URL <http://www.mapple.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長  
 定時株主総会開催予定日 平成28年6月29日  
 有価証券報告書提出予定日 平成28年6月29日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(氏名) 黒田 茂夫  
 (氏名) 大野 真哉  
 配当支払開始予定日

TEL 03-3556-8171  
 平成28年6月30日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期の連結業績(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期	13,035	5.2	306	—	363	—	538	—
27年3月期	12,395	△10.6	△934	—	△887	—	△7,042	—

(注) 包括利益 28年3月期 △20百万円 (—%) 27年3月期 △6,754百万円 (—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
28年3月期	32.37	29.60	2.5	1.3	2.4
27年3月期	△423.51	—	△27.6	△2.8	△7.5

(参考) 持分法投資損益 28年3月期 一百万円 27年3月期 一百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期	28,063	21,652	77.1	1,300.53
27年3月期	28,328	21,978	77.6	1,321.77

(参考) 自己資本 28年3月期 21,625百万円 27年3月期 21,978百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
28年3月期	△942	△524	△366	9,949
27年3月期	1,210	△504	629	11,782

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
27年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00	332	—	1.3
28年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00	332	61.8	1.5
29年3月期(予想)	—	0.00	—	20.00	20.00		415.8	

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,340	△11.4	△440	—	△410	—	△420	—	△25.26
通期	12,360	△5.2	60	△80.5	110	△69.7	80	△85.1	4.81

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数

28年3月期	17,307,750 株	27年3月期	17,307,750 株
28年3月期	679,814 株	27年3月期	679,714 株
28年3月期	16,627,948 株	27年3月期	16,628,225 株

(参考)個別業績の概要

1. 平成28年3月期の個別業績(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期	12,218	9.8	212	—	252	—	446	—
27年3月期	11,125	△10.6	△1,144	—	△1,110	—	△6,763	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期	26.83	24.54
27年3月期	△406.77	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭		
28年3月期	27,234		21,203		77.8	1,273.54		
27年3月期	27,223		21,390		78.6	1,286.41		

(参考) 自己資本 28年3月期 21,176百万円 27年3月期 21,390百万円

2. 平成29年3月期の個別業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
第2四半期(累計)	4,930	△11.6	△340	—	△350	—	△21.05	
通期	11,300	△7.5	130	△48.5	110	△75.3	6.62	

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 経営成績・財政状態に関する分析 (1) 経営成績に関する分析 今後の見通し」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社ではアナリスト向け決算説明会を平成28年6月上旬に開催する予定であります。決算説明会で配布予定の決算補足説明資料につきましては、決算説明会終了後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

○ 添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	4
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	6
(4) 事業等のリスク	6
2. 企業集団の状況	10
3. 経営方針	12
(1) 会社の経営の基本方針	12
(2) 目標とする経営指標	12
(3) 中長期的な会社の経営戦略	12
(4) 会社の対処すべき課題	13
(5) その他会社の経営上の重要な事項	13
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	13
5. 連結財務諸表	14
(1) 連結貸借対照表	14
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	16
(連結損益計算書)	16
(連結包括利益計算書)	17
(3) 連結株主資本等変動計算書	18
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	20
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	21
(継続企業の前提に関する注記)	21
(会計方針の変更)	21
(連結貸借対照表関係)	21
(連結損益計算書関係)	22
(連結包括利益計算書関係)	23
(連結株主資本等変動計算書関係)	24
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	25
(セグメント情報等)	26
(1株当たり情報)	28
(重要な後発事象)	29
6. その他	29
(1) 役員の変動	29
(2) その他	29

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

#### ① 当期の経営成績

当連結会計年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)におけるわが国の経済は、政府の景気対策や日銀の金融緩和に加え原油安等の影響により景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、後半には中国経済の減速による世界経済の下振れリスクや円高・株安による企業収益の下振れリスクも発生し、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当連結会計年度において当社グループは、当社の新規事業である訪日外国人観光客向けのインバウンド事業を確立すべく、多くの海外企業との提携案件等の実現を目指し活動するとともに、訪日外国人観光客向けアプリ『DiGJAPAN!』の改善・改良や収録エリア拡大等積極的に取り組むとともに、外国人エディタによる「地方(ローカル)」深掘りコンテンツを提供する『DiGJAPAN!』ウェブサイトを開発するなど、様々な訪日外国人観光客向けのサービスを展開してまいりました。また、本とアプリの「ダブル使い」といった新たな旅のスタイルを提供する、当社『まっぷるマガジン』の電子付録である「まっぷるリンク」の機能改善や対応商品の拡大にも努めることで累計400万ダウンロードを超える実績を獲得いたしました。2月1日には、インバウンド事業に関連する「旅行関連プラットフォーム提供事業」を展開すべく、㈱トリブコンを100%子会社として設立いたしました。

当連結会計年度における業績は、電子売上では、インバウンド関連の売上や各種スマートフォン向けアプリの売上の増加はあったものの、簡易型カーナビゲーション用アプリケーションソフト『マップルナビ』において、スマートフォン等での無料ナビアプリの影響や軽自動車の販売不振の影響が当初想定よりも大きく、売上が大幅に減少し35億3百万円となり、前連結会計年度に比べ8億60百万円減少しました(前年同期比△19.7%)。また市販出版物においては、期首における返品が当初想定通り大幅に減少したものの、最盛期である夏に書店店頭実売が想定よりも伸び悩む結果となりました。一方で、国内ガイドブック『たびまる』シリーズの改訂に加え、新ガイドシリーズとして『にっぽんクルマ旅』シリーズを出版、また訪日外国人観光客向け商品『多言語地図TOKYO・KYOTO』や『首都圏発 日帰り 大人の小さな旅』、トリップアドバイザーとのコラボガイドブック第2弾等多くの新刊商品を出版してまいりました。加えて、『まっぷるマガジン』や『まっぷる超詳細!さんぽ地図』のmini版の出版による売上拡大もあり、前年同期を大きく上回る売上を確保いたしました。これにより売上高は79億50百万円となり、前連結会計年度に比べ14億77百万円増加いたしました(前年同期比+22.8%)。特別注文品においては、紙媒体における厳しい状況は続いているものの、当社ブランドである『ことりっふ』を活用した「ことりっふ小冊子」の受注が地方自治体等を中心に順調に推移し、前連結会計年度実績を超える売上を獲得しました。広告収入、手数料収入におきましても、順調に推移いたしました。これにより売上高合計は前連結会計年度に比べ6億39百万円(5.2%)増加し、130億35百万円となりました。

損益面におきましては、利益率の高い電子売上の売上減少や退職給付会計における費用負担増、返品調整引当金繰入額の大幅増加等により売上原価負担が増加しましたが、一方で前連結会計年度におけるデータベースの減損処理に伴いその償却負担が減少、またメンテナンス費用の削減に加え、市販出版物における原価削減効果もあり売上原価は大幅に減少(売上原価率が低下)しました。販売費及び一般管理費におきましても、新規事業であるインバウンド事業での先行投資、営業経費の増加や退職給付会計における費用負担増はあるものの、広告宣伝費や研究開発費、業務委託費、のれん償却額等の費用削減により前連結会計年度を下回る結果となりました。これにより、当連結会計年度では営業利益3億6百万円を計上することができました(前年同期は、営業損失9億34百万円)。経常利益は3億63百万円となりました(前年同期は、経常損失8億87百万円)。また、特別利益として保有有価証券の売却に伴い投資有価証券売却益1億71百万円を計上いたしました。加えて法人税率の引き下げに伴い、税効果会計における法定実効税率が下がったことにより、繰延税金負債のみを計上している当社においては、法人税等調整額

が41百万円の減少となりました。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は5億38百万円となりました(前年同期は、親会社株主に帰属する当期純損失70億42百万円)。

② 販売及び受注の状況

販売実績 (単位:百万円)

区分	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	前年同期比 (%)
市販出版物			
地図	2,318	3,206	+ 38.3
雑誌	2,949	3,281	+ 11.3
ガイドブック	1,173	1,246	+ 6.3
実用書	31	214	+ 574.0
小計	6,472	7,950	+ 22.8
特別注文品	668	732	+ 9.6
広告収入	860	801	△6.9
電子売上	4,363	3,503	△19.7
手数料収入	30	48	+ 57.3
合計	12,395	13,035	+ 5.2

(注) 1. 金額は販売価格によって記載しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注状況

当社グループでは、民間企業や官公庁などに販売する特別注文品と電子売上の一部を受注生産しております。

区分	受注高(百万円)	前年同期比 (%)	受注残高(百万円)	前年同期比 (%)
特別注文品	718	2.7	47	△22.3
電子売上	3,317	△26.3	176	△51.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 今後の見通し

近年、当社グループにおける従来の主力事業である出版事業では、当連結会計年度では増収を確保したものの依然として厳しい事業環境が続いておりますが、一方、電子事業ではスマートフォン等モバイルツールの普及拡大が急速に伸びており、新たなビジネスチャンスも多くなってきております。この様な事業環境の中、出版物連携のアプリケーション『まっぷるリンク』の更なる機能充実を図り出版物の売上増加を目指すとともに、連携したサービスの提供を進めてまいります。また「ことりっぷ」のブランド展開も積極的に進めてまいります。『マップルナビ』においては、PNDや軽自動車の販売状況は厳しくなっておりますが、今後さらに当社独自のガイド情報を活用したナビゲーションシステムを開発し普通車の車載カーナビゲーションへの採用を目指してまいります。また、新規事業である「インバウンド事業」は、今後の事業拡大の可能性が非常に大きい事業であると判断しており、これまでに構築してきた情報、技術をフル活用し、訪日外国人観光客にとって利便性が高く、お得な情報を獲得できるサービスを提供し、有力海外企業と提携しそのサービスを広く普及させていきます。これにより訪日外国人観光客に向けた情報発信を必要とする

企業に対し、その機会を提供できる状況を構築するとともに多種多様な売上を獲得してまいります。

一方で、上記記載の新規事業や新規取り組みを積極的に展開していくためには、各種システム開発やデータベースの強化充実等の投資が必要となってきます。また海外企業との提携等も積極的に行っていく必要性もあり、それに係る投資も行ってまいります。

次期の業績につきましては、市販出版物においては、まっふるマガジン mini 版出版による売上増加要因はあるものの、当連結会計年度にあった期首返品負担の減少や新刊商品の積極的出版といった特殊要因がなくなる関係から、その売上高は大きく減少する見通しとなっております。また、当連結会計年度において大幅減収となったカーナビ関連売上では、これ以上の減収は防げる見通しとなっております。新規事業であるインバウンド事業の増収に加え、新たに設立した㈱トリプコンにおける旅行関連プラットフォーム提供事業に係る売上の獲得等、増収要因もあるものと見通しております。原価、販売費及び一般管理費においては、インバウンド事業関連の経費が引き続き先行して発生、特に新会社である㈱トリプコンでは営業経費、システム開発費用の負担が売上獲得よりも先行いたします。返品調整引当金は当連結会計年度末に大幅に積み増した影響から、次期には大幅な戻入となる見通しとなっております。また、退職給付会計において、日銀のマイナス金利政策に伴う国債金利低下の影響を受け、割引率を変更することにより退職給付費用負担が大幅に増加する等人件費負担が増加する見通しとなっております。

このような状況のもと、次期の業績につきましては、売上高 123 億 60 百万円(当連結会計年度比 5.2%減少)、営業利益 60 百万円(当連結会計年度比 80.5%減少)、経常利益 1 億 10 百万円(当連結会計年度比 69.7%減少)、親会社株主に帰属する当期純利益 80 百万円(当連結会計年度比 85.1%減少)を見込んでおります。しかし実際の業績におきましては様々な要因により上記見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。また、現在最も注力している「インバウンド事業」においては、今後大手海外企業との提携の実現等により、予想を超える展開となる可能性があるものと判断しております。今回発表の業績予想数値と大きく異なる見込みとなった場合には、適時に業績予想の修正を発表する方針であります。

なお、業績の見通しにつきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因の一部である当社の事業におけるリスクについては、後述の「(4) 事業等のリスク」をご覧ください。

## (2) 財政状態に関する分析

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末における資産合計は 280 億 63 百万円となり、前連結会計年度末に比べ 2 億 65 百万円(0.9%)減少いたしました。この主な要因は、受取手形及び売掛金が 12 億 13 百万円、有価証券が 3 億円、商品及び製品が 1 億 86 百万円、仕掛品が 1 億 57 百万円、流動資産その他が 2 億 90 百万円、データベースが 1 億 18 百万円、ソフトウェアが 2 億 98 百万円、投資有価証券が 1 億 7 百万円増加した一方で、現金及び預金が 24 億 33 百万円、割引率見直しに伴い退職給付に係る資産が 3 億 23 百万円減少したことあります。負債合計は 64 億 10 百万円となり、前連結会計年度末に比べ 60 百万円(1.0%)増加いたしました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が 2 億 89 百万円、未払費用が 1 億 34 百万円、繰延税金負債が 2 億 70 百万円減少した一方で、返品調整引当金が 4 億 6 百万円、流動負債その他が 3 億 45 百万円増加したことあります。純資産においては、利益剰余金が剰余金の配当 3 億 32 百万円及び親会社株主に帰属する当期純利益 5 億 38 百万円等により 2 億 5 百万円増加する一方で、その他有価証券評価差額金が 3 億 27 百万円減少、退職給付に係る調整累計額が 2 億 31 百万円減少いたしました。これ

により、純資産合計は3億25百万円(1.5%)減少し、216億52百万円となりました。

この結果、自己資本比率は77.1%と0.5ポイント悪化しております。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動によるキャッシュ・フローにおいて9億42百万円の資金を使用、投資活動によるキャッシュ・フローにおいて5億24百万円の資金を使用、財務活動によるキャッシュ・フローにおいて3億66百万円の資金を使用した結果、その期末残高は前連結会計年度末に比べ18億32百万円の減少し、99億49百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、9億42百万円の支出となりました。その主な要因は、税金等調整前当期純利益が5億33百万円であったことに加え、減価償却費及びその他の償却費が3億28百万円、返品調整引当金の増加額が4億6百万円あった一方で、有価証券及び投資有価証券売却益が1億71百万円、売上債権の減少額が12億13百万円、たな卸資産の増加額が3億39百万円、仕入債務の減少額が2億89百万円、その他流動負債の減少額が1億42百万円あったことであります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、5億24百万円の支出となりました。その主な要因は、定期預金の払戻による収入が6億円あった一方で、有形固定資産の取得による支出が55百万円、無形固定資産の取得による支出が5億76百万円、投資有価証券の取得による支出が5億11百万円あったことであります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、3億66百万円の支出となりました。その主な要因は、新株予約権の発行による収入が16百万円あった一方で、配当金の支払額が3億33百万円あったことに加え、長期借入金の返済による支出が50百万円あったことであります。

(キャッシュ・フロー関連指標の推移)

	24年3月期	25年3月期	26年3月期	27年3月期	28年3月期
自己資本比率(%)	83.8	84.8	85.3	77.6	77.1
時価ベースの自己資本比率(%)	29.9	28.5	33.9	53.1	36.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	80.1	108.5	38.0	152.1	-1.9
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	89.9	63.4	156.7	97.9	-78.9

(注) 自己資本比率 : 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債/営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー/利払い

※ 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式控除後)により算出しております。

※ 営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。

※ 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

(3)利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置づけており、利益配分につきましては会社の業績や経営環境を勘案しつつ、安定的な配当の継続を行うことを基本方針としております。

また内部留保金につきましては、今後の事業展開上、特に発展可能性の高い分野であると判断する電子事業における急成長を実現させるべく、データベースの更なる強化充実やそれを活用したサービスのためのシステム開発や設備投資等へと積極的に有効活用していくとともに、新規事業の拡大や急速な経営環境の変化にもすばやく対応するべく他企業との提携を図る等、長期的な視点で投資効率を考え活用してまいります。

当期の利益配当金につきましては、上記基本方針に従い当初予定通り、前期同様普通配当を1株につき20円とすべく、第57期定時株主総会に提案させていただく予定でおります。

なお、次期の配当につきましては、従来の事業における事業環境は厳しい状況が続きますが、新規事業を中心とした売上増加と原価削減を推し進め利益を確保できる見込みであることをふまえ、当期同様に普通配当を1株につき20円とする予定でおります。

(4)事業等のリスク

当社グループの経営成績、財務状況等に重大な影響を及ぼす可能性のあるリスク等につきまして以下の通り記載いたします。これらにつきましては、投資者の判断に重要な影響を及ぼすものであると考えております。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(データベースに関するリスク)

当社グループは地図及びガイドデータベースである「昭文社統合地図情報システム(SiMAP)」を根幹に事業を営んでおります。このデータベースの保管については複数箇所での保管するなどバックアップ体制等に万全を期しておりますが、予期せぬ事態が発生し、データベースが消失した場合や使用不可能となった場合には、当社グループの業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(システムに関するリスク)

当社グループの配信システムに障害が発生した場合(システムのダウンや地図が正常に配信できない等)、当社グループはシステムが復旧するまでの間の収益機会を喪失するだけでなく、取引先等から当社グループのシステムに対する信用を失い、取引先等に損害が発生した場合には損害賠償を求められる可能性があります。当社グループは、かかる事態が発生しないようシステム開発を行っておりますが、損害が重大なものであった場合には、当社グループの業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(技術革新に関するリスク)

当社グループにおいては、電子事業を営む上で多くの新規技術を必要といたします。特に情報配信等に関する技術は必要不可欠であります。この分野における技術革新は顕著であります。当社グループにおいても、研究開発を進めておりますが、開発の遅延や開発した技術の陳腐化により、投入した資源に見合うだけの十分な収益を計上できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(新商品および新サービス開発に関するリスク)

当社グループの事業継続においては、社会環境の変化や顧客ニーズの変化に伴う、新商品および新サービスの提供が不可欠であります。現在は、時代に則した新商品および新サービスの投入を積極的に展開しておりますが、開発の遅延やコストの増大、開発の継続が出来ない場合や売上計画が達成できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。



( 品質問題に関するリスク )

当社グループにおいては、品質管理部を設置するなど、品質の確保を図るため最善の努力を払っておりますが、予想し得ない欠陥が生じる可能性は否定できません。欠陥が生じた場合には、回収コストや損害賠償・訴訟費用の発生、信用の失墜、売上の減少等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

( 新規事業における投資費用の回収不能リスク )

当社グループにおいては、新規事業として「ナビゲーション事業」「宿泊予約事業」に参入し、多くの資源を投入してまいりました。また「訪日観光客向けインバウンド事業」も開始いたしました。この様な新規事業が事業計画を達成できず、投入した資源に見合うだけの十分な収益を計上できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

( データベース強化・充実のための投資費用の回収不能リスク )

当社グループにおいては、コア・コンピタンスである「SiMAP」の強化・充実のため、積極的に整備を行っております。この整備は今後の当社の事業を担う電子事業の発展のため不可欠であり、多くの資源を投入して参りました。その構築したデータベースが出版事業および電子事業において、投入した資源に見合うだけの十分な収益を計上できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

( 特定の取引先への依存に関するリスク )

従来より、当社グループは地図、ガイドブックを中心とした出版事業を営んできましたが、その事業の成果である地図データ、ガイドデータの構築に伴い、現在そのSiMAPデータベースを活用した電子事業を当社事業の2本目の柱とすべく、その発展・拡大を目指しております。しかしながら現状においては、いまだ売上高の過半(72.8%)を出版事業に依存している状況にあります。

その出版事業における中心的販路である書店との取引においては、日本全国に及ぶ中小書店への物流システムの確保および信用リスク回避のため2大取次と言われる㈱トーハンおよび日本出版販売㈱や地図専門取次である日本地図共販㈱を通した取引がその約 72.4%を占めております。これにより、この 3 社の経営状況次第によっては当社業績に重大な影響を与える可能性があります。

また、当社グループのカーナビゲーション事業においては、特定ハードメーカーへの依存が高く、当該企業の経営状況の悪化およびそれに代わる取引先が開拓できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

( 返品制度に関するリスク )

また、上記出版事業における取次・書店取引においては、出版業界における取引慣行として返品制度があります。この制度に基づき当社グループは取次・書店に対し一旦商品を出荷し売上計上したものについても、後日取引先より同条件にて返品を受ける約束となっております。よって特殊要因等により出版物の価値が減少した場合には書店店頭にある在庫分については、取引先との取引時期にかかわらず返品を受けることとなります。返品については売上高の減算項目として会計処理している関係上、それにより売上高が在庫の減少以上に減少する可能性があります。また、当社グループの商品が情報誌である特性から、一度返品された商品については再度在庫として扱い再在庫することが難しく、基本的に廃棄処分としております。これに対して通常の返品率における返品による損失に備え、その売買利益相当額および返品に伴い発生する廃棄損相当額について返品調整引当金を計上しておりますが、通常の返品率を超える返品が発生した場合には、売上原価に対する売上高の割合が減少する状態となり、売上総利益率の減少率が売上高の減少率を上回る可能性があります。

( 信用リスク )

当社グループでは、取引先などの信用リスクに備えておりますが、取引先的不正行為や経営の悪化等による予期せぬ貸倒れリスクが顕在化し、損失の追加計上や貸倒引当金の計上が発生す

る場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

( 国土地理院の動向に関するリスク )

当社グループの地図データについては、その基本部分について国土地理院が発行している地形図および地勢図を基に構築・更新を行っております。国土地理院が今後その使用を認めなくなった場合や当社事業の根幹に係る事項について制約が設けられる場合、また、国土地理院において当社同様の地図データの制作および無償提供等が行われた場合には、当社グループの業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

( 財務リスク )

・減損会計

当社グループでは、過年度においてデータベース・ソフトウェア・固定資産・リース資産等の減損処理を行い、減損損失を計上しております。将来においても、保有するデータベース・固定資産等の回収可能性や使用状況により更に減損損失を計上する可能性があり、当社グループの業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

・退職給付債務

当社グループにおいては、割引率・給与水準・退職率・年金資産の長期期待運用収益率等によって算出される退職給付費用および退職給付債務を負担しております。この数値計算においては各種見積りに基づき算出しておりますが、実際の結果はその見積りと大きな差異が発生する可能性があり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

( 資金調達に関するリスク )

当社グループにおいては、電子事業拡大のためデータベースの強化・充実および各種システム開発等、積極的な先行投資を実施しております。利用者ニーズの変化の早い電子事業においては今後も多額の投資が必要となる可能性があります。そのような状況の中、主要取引先の経営状況やその他の取引先からの資金回収に不能や遅延が生じた場合、外部からの資金調達が必要になる可能性があり、外部から資金調達を得られない場合には、当社事業存続において重大な影響を及ぼす可能性があります。

( 知的所有権に関するリスク )

日本におきまして、他社によるデジタル地図やインターネット事業関連の特許出願を多数確認しておりますが、当社グループの現在の事業に重要な問題をもたらすものではないと認識しております。しかしながら、今後新たな特許出願がなされ、または出願中のものに対して特許権が認可されるなど、当社グループ事業関連技術等について何らかの特許侵害問題となったとき、当社グループが損害賠償義務を負う場合や抵触する特許権について使用を継続することができなくなる場合は、当社グループ業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループによる他社保有特許権等の使用が認められた場合においても、ロイヤリティの支払い等により当社グループ業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

( 海外企業との提携に関するリスク )

当社グループの新規事業である「訪日観光客向けインバウンド事業」においては、海外企業との事業提携等が特に重要となります。これにより事業が大きく拡大する可能性がある半面、取引習慣や法律等の違いによる損失の可能性もあるため、慎重な事業推進が必要となってきます。この影響により大きな損失を招く可能性があります。

( 法的規制に関するリスク )

当社グループの事業活動においては、知的財産権を始めとする様々な法令または公的規制の下、事業活動を行っております。これらの法令等に重大な変更や当社事業に係る重大な法令等の新設がある場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

( 個人情報情報の取扱いに関するリスク )

当社グループの顧客等の個人情報につきましては、個人情報管理規程や社内ネットワーク管

理規程等を設け社内の管理体制の充実を図る等、情報漏洩防止に努めておりますが、外部からの不正なアクセスや想定していない事態によって個人情報の外部流出等が発生した場合には、当社グループの業績及び社会的信用に悪影響を与える可能性があります。

( 内部管理体制に関するリスク )

当社グループにおいては、従業員等が遵守すべき倫理憲章・行動規範・コンプライアンスガイドラインを定めた倫理綱領を制定し、周知および遵守徹底を図るとともに、内部統制システムの体制整備を行っております。しかし内部統制システムには限界があり、内部管理に関するリスクを全て解決できる保証はなく、法令違反等が発生する可能性を否定できません。法令違反等が発生した場合には、行政指導や信用の失墜、訴訟費用の発生等により当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

( 人材の確保に関するリスク )

当社グループでは、優秀な人材の採用および育成が事業成長に不可欠であると認識しております。実際に優秀な人材の確保ができない場合や優秀な人材の流出があった場合には、今後の事業展開に支障をきたし、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

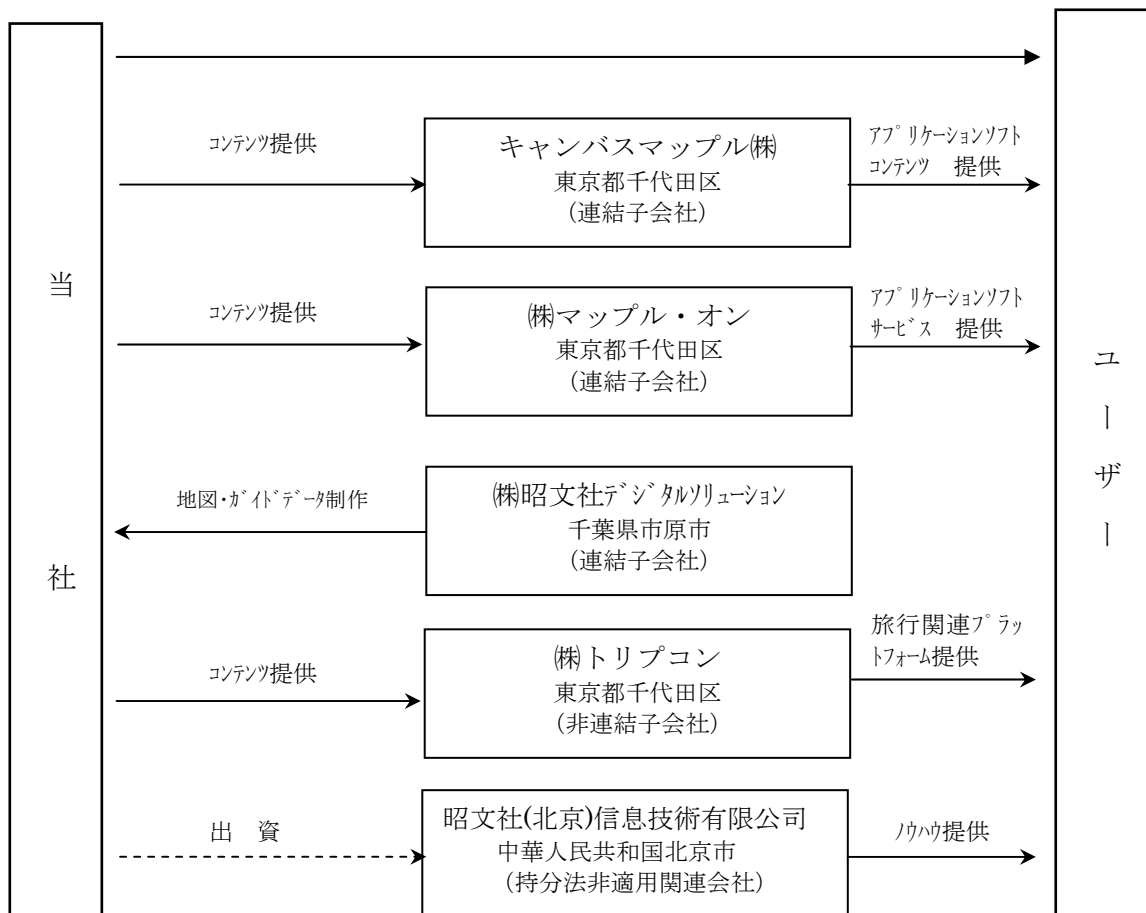
( 自然災害に関するリスク )

当社グループの主たる事業拠点は首都圏に集中しており、この地区において地震や台風等による大規模災害が発生した場合、設備被害による生産停止や物流体制の混乱等による出荷遅延等が発生する可能性があります。また、商品を保管している商品センターが災害にあり、商品の焼失等があった場合には、一時的ではあるが商品の出庫ができず、当社グループの業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。また、主力事業である出版事業においては編集から製本作業までを外注先に委託していることから、当社グループの設備が被害を免れた場合においても、外注先の被害状況によっては、上記同様のリスクが発生する可能性があります。

## 2. 企業集団の状況

当社グループは、独自開発による地図データ・ガイドデータを中核とし、それを活用した地図・雑誌・ガイドブックの企画・制作及び出版販売や、デジタルデータベースの企画・制作・販売およびそれらを活用したサービスの提供等「地図・旅行情報提供事業」を展開しております。

また当社グループは、当社、連結子会社3社、非連結子会社1社、持分法非適用関連会社1社で構成され、連結子会社であるキャンバスマップル㈱では「ナビゲーション事業」を展開すべく、当社の持つ各種地図・ガイドコンテンツを活用したナビゲーション用アプリケーションソフト『マップルナビ』の企画・開発・販売、およびカーナビメーカー向けコンテンツ販売を行なっております。㈱マップル・オンではモバイル(情報端末/携帯電話・スマートフォン)向けアプリケーションソフトの企画開発及び販売とWeb広告事業を行なっております。また、㈱昭文社デジタルソリューションには当社デジタルデータベースの企画・制作業務を委託しております。また当連結会計年度におきまして旅行関連プラットフォーム提供事業を展開すべく、㈱トリプコンを100%子会社として2016年2月1日に設立いたしました。なお当連結会計年度におきましては、設立後2ヶ月しか経過しておらず、営業活動等も開始していない状況から、当社グループにおける重要性はまだないものと判断し、非連結子会社としております。



関係会社の状況

名 称	住 所	資本金 (百万円)	主 要 な 事 業 の 内 容	議 決 権 の 所 有 割 合 (%)	関 係 内 容
〈連結子会社〉 キャンバスマップル㈱	東京都千代田区	450	カーナビ 事業	100.0	カーナビゲーション 事業におけるコン テンツ提供 役員の兼務
〈連結子会社〉 ㈱マップル・オン	東京都千代田区	80	モバイル 事業	100.0	モバイル(携帯、スマート フォン)向けアプリへの コンテンツ提供 役員の兼務
〈連結子会社〉 ㈱昭文社デジタルソリューション	千葉県市原市	458	デジタルデータ 制作	100.0	当社電子事業である データベースの企 画・制作 役員の兼務
〈非連結子会社〉 ㈱トリプコン	東京都千代田区	150	旅行関連プ ラットフォーム事業	100.0	旅行関連プ ラットフォーム の提供
〈持分法非適用関連会社〉 昭文社(北京) 信息技术 有限公司	中華人民共和国 北京市	150	地図制作	49.0	中国における地図コ ンテンツ事業展開に おける出資

### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社は創業以来、「地図をベースに限りない挑戦により変化の時代を拓き、社会に貢献する」という経営理念のもと、顧客のニーズに応えた最高の地図をつくり、もっとも信頼される新鮮な情報を提供することに邁進してまいりました。

また、「革新を追求」という社是を実践し、今日の地図・旅行ガイドブックを中心とした出版事業を確立してまいりました。

しかし近年、情報提供方法も従来の紙媒体から電子媒体へと移り、多くの利用者に多種多様な情報を大量に提供することが可能となってまいりました。この様な事業環境において当社グループでは、単なる地理情報の提供から、「旅やおでかけの特選情報を提供し、“幸せの記憶となる体験”のお手伝いをする」ことで、多くの人々に喜びを感じてもらい、旅と好奇心で日本を元気にすることを、旅を通じて紛争のない平和で豊かな世界を実現することを目指して、社会貢献するべく、『旅でもっとつながる世界へ。好奇心でもっと感じる世界へ。』を新たな企業理念といたしました。

また上記企業理念に基づき、以下の4つを経営の基本方針として積極的な事業展開を図ってまいります。

1. 旅行活動のトータルサポーターを目指します。
2. 旅やおでかけに寄り添うブランド価値を育成します。
3. “ローカリゼーション”“グローバルゼーション”を両立します。
4. 共鳴力と協働力を大切にします。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループでは、従来より「地図・旅行情報の提供」を事業としておりますが、その提供方法は、紙出版物からデジタルメディアでの提供へと大きく変わってきております。また、デジタルメディアにおいてもパソコンからスマートフォンへ、車載カーナビゲーションからPNDへ、更にはスマートフォンアプリへと、その提供媒体も急速に変化しております。この様に事業環境が激変する中、従来の出版事業での売上は急速な減少傾向にあり、当社グループでの売上高もここ数年減少してきております。早急にデジタルメディアでの売上高拡大を実現し、減少する出版事業での売上高を補い、継続的な売上高増加を目指すとともに、新規事業である「訪日観光客向けインバウンド事業」を早期確立・拡大し黒字確保を実現してまいります。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

上記経営方針に基づき

1. 「旅行活動のトータルサポーターを目指します。」においては、旅のきっかけ作りから計画、手配、滞在や回遊の支援、思い出整理まで、お客さま視点で旅の体験価値を高めることを目指します。
2. 「旅やおでかけに寄り添うブランド価値を育成します。」においては、商品ブランド“まっぷる”“ことりっぷ”と、その基盤となるコーポレートブランド“MAPPLE”のブランド価値を育成し、選ばれる旅のブランドであり続けます。
3. 「“ローカリゼーション”“グローバルゼーション”を両立します。」においては、地方が主体の持続可能な観光産業の発展を応援します。旅というリアルなつながりによって理解と共感が連鎖する、そして誰もが安心して旅に出られる平和で豊かな世界の実現を応援します。
4. 「共鳴力と協働力を大切にします。」においては、既存の仕組みにとらわれず、新しいこと、おもしろいことに共鳴する力。ユーザー、取引先、社員同士がともに力を合わせ作り上げる協働の力。この2つの力を大切にイノベーションを起こします。

(4) 会社の対処すべき課題

変化の激しい近年、情報の提供媒体もデジタルメディアへと急速な広がりを見せ、情報提供会社にとっては紙媒体も含めた各メディアの特性を活かした利便性の高い商品・サービスを開発することが重要となってきております。

当社グループにおきましても各メディア、デバイスにとらわれず、本当に価値のある特選情報を提供できるサービスを数多く展開していくことが大きな課題となっております。

このような情報発信のマルチデバイス化や最適な商品・サービスの提供を推進する上で、企画・制作体制を抜本的に改革し、メディアにとらわれない制作体制の構築が急務となっておりますが、前々連結会計年度からはデジタルコンテンツ制作と出版制作を統合しワンソースマルチユースを実現すべく取り組んでまいりました。

すでに当連結会計年度には、旅行ガイドブックやマガジンと連携するスマートフォンアプリ『まっふるリンク』を無償提供することで出版物の付加価値を高める施策を実施しておりますが、より利用者にとって使いやすく、役に立つサービスを提供していくことが重要であると考えております。

さらに、旅好きな女性に圧倒的な支持を得ている『ことりっふ』は、そのブランド力も評価され、出版物以外の商品とのコラボレーションも多数実現されてきました。次なるステップとして、この『ことりっふ』ブランドを多くの業界に対して広く展開していくことが課題となっております。

従来の出版事業、電子事業の事業環境が厳しい中、新たな事業として「インバウンド事業」を積極的に展開していきます。近年日本においては、海外からの観光客が増加してきているとともに、2020年には東京オリンピックの開催もきまり、今後さらに多くの外国人観光客が急増する見込みとなっております。このような状況の中、従来より各種旅行情報を整備してきている当社グループにおいては絶好のビジネスチャンスであり、これら外国人観光客への情報提供を行う「インバウンド事業」は、重要事業のひとつとして位置づけ、早急にサービス提供を展開していく必要があります。すでに台湾やタイ向け Facebook ページの開設、5 か国語対応の観光アプリケーション『DiGJAPAN! (ディグジャパン)』(スマートフォン用)の提供等も始めておりますが、更なるサービスの充実が急務となっております。また、訪日観光客数も多く、購買力も大きな中国人向けサービスにおいては、中国企業との積極的な業務提携を通じて、どこよりも早く、どこよりも多くの観光客にアプローチできるサービスの提供を行ってまいります。

当社グループが今後も一般利用者まで行きわたる情報発信を継続するにあたり、提供するコンテンツの品質維持向上が重要な課題となっております。すでに、品質管理部署が中心となり、当社グループ各社全社員が品質を保証していくための具体的に取り組むべき活動方針を定め周知するとともに最善の努力を払い、さらなる品質向上に取り組んでまいります。

上記課題に対して、グループ一丸となり、経営資源を投入して解決してまいります。

(5) その他会社の経営上の重要な事項

特に該当する事項はありません。

**4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方**

当社グループは、主に国内において事業を行っており、海外からの資金調達の必要性に乏しいこと、また国内同業他社との比較可能性を確保するため、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

5. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	11,357,006	8,923,918
受取手形及び売掛金	3,081,905	4,295,780
有価証券	1,025,280	1,325,527
商品及び製品	1,576,603	1,762,628
仕掛品	350,861	507,893
原材料及び貯蔵品	6,411	3,118
その他	82,994	373,378
貸倒引当金	△538	△808
流動資産合計	17,480,525	17,191,437
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	7,426,989	7,416,273
減価償却累計額	△4,881,790	△4,998,528
建物及び構築物 (純額)	※2 2,545,199	※2 2,417,745
機械装置及び運搬具	483,411	482,478
減価償却累計額	△437,998	△447,640
機械装置及び運搬具 (純額)	45,413	34,838
工具、器具及び備品	1,009,677	946,317
減価償却累計額	△924,666	△866,365
工具、器具及び備品 (純額)	85,010	79,952
土地	※2 4,213,950	※2 4,213,950
有形固定資産合計	6,889,574	6,746,486
<b>無形固定資産</b>		
データベース	—	118,692
ソフトウェア	316,332	614,414
その他	9,412	9,291
無形固定資産合計	325,745	742,398
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,043,170	※1 2,151,129
退職給付に係る資産	1,356,154	1,032,552
その他	※1 614,488	※1 620,752
貸倒引当金	△381,208	△421,395
投資その他の資産合計	3,632,605	3,383,038
固定資産合計	10,847,925	10,871,923
資産合計	28,328,450	28,063,361



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,305,829	1,015,847
短期借入金	770,000	770,000
1年内返済予定の長期借入金	※2 50,017	※2 20,838
未払費用	460,431	325,988
未払法人税等	67,244	66,605
未払消費税等	62,051	139,044
賞与引当金	362,405	308,085
返品調整引当金	607,277	1,013,605
その他	197,467	542,472
流動負債合計	3,882,723	4,202,486
固定負債		
社債	1,000,000	1,000,000
長期借入金	※2 20,838	—
繰延税金負債	1,134,888	864,157
役員退職慰労引当金	224,500	246,400
退職給付に係る負債	85,002	95,310
その他	2,092	2,092
固定負債合計	2,467,320	2,207,959
負債合計	6,350,044	6,410,445
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,903,870	9,903,870
資本剰余金	10,708,236	10,708,236
利益剰余金	1,000,683	1,206,292
自己株式	△525,281	△525,371
株主資本合計	21,087,507	21,293,026
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	936,631	609,046
退職給付に係る調整累計額	△45,732	△276,870
その他の包括利益累計額合計	890,898	332,176
新株予約権	—	27,713
純資産合計	21,978,406	21,652,915
負債純資産合計	28,328,450	28,063,361

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高	12,395,933	13,035,362
売上原価	9,311,202	8,253,204
売上総利益	3,084,731	4,782,158
返品調整引当金戻入額	815,323	607,277
返品調整引当金繰入額	607,277	1,013,605
返品調整引当金繰入差額	△208,046	406,328
差引売上総利益	3,292,777	4,375,830
販売費及び一般管理費	※1,※2 4,226,853	※1,※2 4,068,996
営業利益又は営業損失(△)	△934,076	306,834
営業外収益		
受取利息	3,138	2,615
受取配当金	23,391	29,948
受取賃貸料	29,471	30,487
保険配当金	4,259	4,052
その他	18,891	25,337
営業外収益合計	79,152	92,441
営業外費用		
支払利息	12,380	12,035
株式交付費	—	10,858
社債発行費	8,483	—
賃貸収入原価	8,732	8,981
投資事業組合運用損	1,429	2,119
その他	1,570	2,178
営業外費用合計	32,595	36,173
経常利益又は経常損失(△)	△887,519	363,102
特別利益		
固定資産売却益	※3 550	※3 1,422
投資有価証券売却益	1,583	171,610
特別利益合計	2,133	173,032
特別損失		
固定資産売却損	※4 7,799	※4 1
固定資産除却損	※5 1,207	※5 2,345
投資有価証券評価損	4,999	—
減損損失	5,868,326	—
特別損失合計	5,882,333	2,347
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△6,767,718	533,787
法人税、住民税及び事業税	59,153	37,412
法人税等調整額	215,368	△41,794
法人税等合計	274,522	△4,381
当期純利益又は当期純損失(△)	△7,042,241	538,169
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△7,042,241	538,169

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	△7,042,241	538,169
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	422,890	△327,584
退職給付に係る調整額	△135,332	△231,138
その他の包括利益合計	※ 287,558	※ △558,722
包括利益	△6,754,682	△20,552
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△6,754,682	△20,552
非支配株主に係る包括利益	—	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,903,870	10,708,236	8,314,185	△525,047	28,401,244
会計方針の変更による累積的影響額			61,305		61,305
会計方針の変更を反映した当期首残高	9,903,870	10,708,236	8,375,491	△525,047	28,462,549
当期変動額					
剰余金の配当			△332,566		△332,566
親会社株主に帰属する当期純損失(△)			△7,042,241		△7,042,241
自己株式の取得				△234	△234
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△7,374,807	△234	△7,375,042
当期末残高	9,903,870	10,708,236	1,000,683	△525,281	21,087,507

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	513,740	89,599	603,339	—	29,004,584
会計方針の変更による累積的影響額					61,305
会計方針の変更を反映した当期首残高	513,740	89,599	603,339	—	29,065,889
当期変動額					
剰余金の配当					△332,566
親会社株主に帰属する当期純損失(△)					△7,042,241
自己株式の取得					△234
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	422,890	△135,332	287,558	—	287,558
当期変動額合計	422,890	△135,332	287,558	—	△7,087,483
当期末残高	936,631	△45,732	890,898	—	21,978,406

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	9,903,870	10,708,236	1,000,683	△525,281	21,087,507
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	9,903,870	10,708,236	1,000,683	△525,281	21,087,507
当期変動額					
剰余金の配当			△332,560		△332,560
親会社株主に帰属する当期純利益			538,169		538,169
自己株式の取得				△89	△89
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	205,608	△89	205,518
当期末残高	9,903,870	10,708,236	1,206,292	△525,371	21,293,026

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	936,631	△45,732	890,898	—	21,978,406
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	936,631	△45,732	890,898	—	21,978,406
当期変動額					
剰余金の配当					△332,560
親会社株主に帰属する当期純利益					538,169
自己株式の取得					△89
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△327,584	△231,138	△558,722	27,713	△531,009
当期変動額合計	△327,584	△231,138	△558,722	27,713	△325,490
当期末残高	609,046	△276,870	332,176	27,713	21,652,915

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△6,767,718	533,787
減価償却費及びその他の償却費	1,218,881	328,626
有価証券及び投資有価証券売却損益(△は益)	△1,583	△171,610
有価証券及び投資有価証券評価損益(△は益)	4,999	—
減損損失	5,868,326	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4,305	40,456
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	9,002	10,307
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△287,632	△29,729
賞与引当金の増減額(△は減少)	16,259	△54,320
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△208,046	406,328
受取利息及び受取配当金	△26,529	△32,564
受取賃貸料	△29,471	△30,487
支払利息	12,380	12,035
売上債権の増減額(△は増加)	1,069,743	△1,213,874
たな卸資産の増減額(△は増加)	△113,026	△339,764
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△7,654	△53,394
その他の固定資産の増減額(△は増加)	△18,438	△2,144
仕入債務の増減額(△は減少)	307,746	△289,981
未払消費税等の増減額(△は減少)	△11,226	76,993
その他の流動負債の増減額(△は減少)	151,446	△142,352
その他の固定負債の増減額(△は減少)	30,300	21,900
小計	1,213,451	△929,788
利息及び配当金の受取額	26,327	32,809
賃貸料の受取額	29,619	30,444
利息の支払額	△12,369	△11,937
法人税等の支払額	△46,463	△63,648
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,210,565	△942,120
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△600,000	—
定期預金の払戻による収入	600,000	600,000
有形固定資産の取得による支出	△64,325	△55,698
有形固定資産の売却による収入	19,464	1,600
無形固定資産の取得による支出	△467,998	△571,609
投資有価証券の取得による支出	△26,397	△511,313
投資有価証券の売却による収入	31,874	10,240
貸付金の回収による収入	3,285	2,515
投資活動によるキャッシュ・フロー	△504,096	△524,266
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
社債の発行による収入	991,516	—
長期借入れによる収入	50,000	—
長期借入金の返済による支出	△79,174	△50,017
自己株式の取得による支出	△234	△89
新株予約権の発行による収入	—	16,944
配当金の支払額	△332,955	△333,292
財務活動によるキャッシュ・フロー	629,152	△366,454
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,335,620	△1,832,840
現金及び現金同等物の期首残高	10,446,666	11,782,287
現金及び現金同等物の期末残高	※ 11,782,287	※ 9,949,446

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当連結会計年度から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当連結会計年度の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する連結会計年度の連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、当期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる連結財務諸表に与える影響はありません。

(連結貸借対照表関係)

※1. 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
投資有価証券(株式)	一千円	300,000千円
投資その他の資産 その他(出資金)	19,000	19,000
計	19,000千円	319,000千円

※2. 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
建物及び構築物	393,910千円	377,252千円
土地	206,040	206,040
計	599,950千円	583,293千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	50,017千円	20,838千円
長期借入金	20,838	—
計	70,855千円	20,838千円

(連結損益計算書関係)

※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
荷造発送費	171,912千円	172,339千円
販売促進費	131,087	150,623
広告宣伝費	307,004	210,146
貸倒引当金繰入額	△4,064	40,178
役員報酬	182,286	179,435
役員退職慰労引当金繰入額	30,300	21,900
給料手当・賞与	1,494,344	1,520,303
賞与引当金繰入額	180,408	157,371
法定福利費	258,822	267,162
退職給付費用	△80,913	71,851
旅費交通費	162,143	158,107
減価償却費	113,631	100,968
賃借料	63,233	63,975
業務委託費	254,964	205,779
租税公課	50,697	51,123
研究開発費	195,514	98,408
のれん償却額	44,099	—
その他	671,381	599,321
計	4,226,853千円	4,068,996千円

※2. 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
	195,514千円	98,408千円

※3. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
機械装置及び運搬具	550千円	1,418千円
工具、器具及び備品	—	3
計	550千円	1,422千円

※4. 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物及び構築物	484千円	—千円
機械装置及び運搬具	104	—
工具、器具及び備品	0	1
土地	7,211	—
計	7,799千円	1千円



※5. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
建物及び構築物	50千円	0千円
機械装置及び運搬具	—	1,047
工具、器具及び備品	1,156	1,297
計	1,207千円	2,345千円

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	491,175千円	△272,956千円
組替調整額	△1,583	△161,370
税効果調整前	489,592	△434,327
税効果額	△66,701	106,743
その他有価証券評価差額金	422,890	△327,584
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	56,637	△370,206
組替調整額	△241,586	16,875
税効果調整前	△184,948	△353,331
税効果額	49,616	122,193
退職給付に係る調整額	△135,332	△231,138
その他の包括利益合計	287,558千円	△558,722千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(千株)	当連結会計年度 増加株式数(千株)	当連結会計年度 減少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	17,307	—	—	17,307
合計	17,307	—	—	17,307
自己株式				
普通株式(注)	679	0	—	679
合計	679	0	—	679

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	332,566	20	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	332,560	利益剰余金	20	平成27年3月31日	平成27年6月29日

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（千株）	当連結会計年度 増加株式数（千株）	当連結会計年度 減少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	17,307	—	—	17,307
合計	17,307	—	—	17,307
自己株式				
普通株式（注）	679	0	—	679
合計	679	0	—	679

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	332,560	20	平成27年3月31日	平成27年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成28年6月29日 定時株主総会	普通株式	332,558	利益剰余金	20	平成28年3月31日	平成28年6月30日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

※ 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）
現金及び預金勘定	11,357,006千円	8,923,918千円
有価証券（に含まれるMMF）	1,025,280	1,025,527
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△600,000	—
現金及び現金同等物	11,782,287千円	9,949,446千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

当社グループは単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当社グループは単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

区分		外部顧客への売上高
市 販 出版物	地図	2,318,606
	雑誌	2,949,021
	ガイドブック	1,173,368
	実用書	31,868
小計		6,472,864
特別注作品		668,139
広告収入		860,711
電子売上		4,363,498
手数料収入		30,719
合計		12,395,933

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高
日本出版販売株式会社	2,215,308
株式会社トーハン	2,088,010
日本地図共販株式会社	1,295,208

(注) 当社グループは、単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

区分		外部顧客への売上高
市 販 出 版 物	地図	3,206,879
	雑誌	3,281,942
	ガイドブック	1,246,708
	実用書	214,788
小計		7,950,318
特別注文品		732,420
広告収入		801,256
電子売上		3,503,056
手数料収入		48,310
合計		13,035,362

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高
日本出版販売株式会社	2,796,823
株式会社トーハン	2,709,752
日本地図共販株式会社	1,360,758

（注）当社グループは、単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループは単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当社グループは単一のセグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
1株当たり純資産額	1,321.77円	1,300.53円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額(△)	△423.51円	32.37円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	—	29.60円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額(△)		
親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額(△) (千円)	△7,042,241	538,169
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額又は親会社株主に帰属する当期純損失金額(△)(千円)	△7,042,241	538,169
期中平均株式数(千株)	16,628	16,627
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (千円)	—	—
普通株式増加数(千株)	—	1,550
(うち新株予約権(千株))	—	(1,550)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	第1回新株予約権(新株予約権の数6,000個) 第2回新株予約権(新株予約権の数1,300個) 第3回新株予約権(新株予約権の数1,000個) 第4回新株予約権(新株予約権の数8,548個)

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 6. その他

(1) 役員の変動

該当事項はありません。

(2) その他

該当事項はありません。